

飯田下伊那地域におけるペニシリン耐性肺炎球菌の検出状況について

藤本和子 小林貞子 込山茂久 佐々木隆一郎 (飯田保健所)

要旨：長野県感染症情報によると飯田地域のペニシリン耐性肺炎球菌感染症届け出患者数は、県内で2番目に多い。そこで、より詳細な情報を得るために飯田保健所管内におけるペニシリン耐性肺炎球菌検出状況調査を実施した。その結果、検出された肺炎球菌の内、ペニシリン耐性菌の占める割合（分離率）は約67%であった。また、長野県感染症情報では70歳以上の届け出患者数が多いのに対し、今回の調査ではペニシリン耐性肺炎球菌の陽性者は、0歳、1～4歳の乳幼児にも多いことが分かった。

キーワード：長野県感染症情報、ペニシリン耐性肺炎球菌、分離率、高齢者、乳幼児、

A 目的

肺炎球菌は、上気道の常在菌であるとともに呼吸器感染症や髄膜炎、中耳炎等の起原菌でもある。また、この菌による感染症は、市中感染症だけでなく院内感染症の原因菌としても重要視されている。

長野県感染症情報によると飯田地域におけるペニシリン耐性肺炎球菌感染症の届け出患者数は、平成15年以降、県内で2番目に多い。

そこで、管内におけるペニシリン耐性肺炎球菌感染症のまん延防止の基礎的資料を得ることを目的に、飯田下伊那臨床検査研究会と共同でペニシリン耐性肺炎球菌検出状況調査を実施した。

今回は、この調査結果からペニシリン耐性肺炎球菌の分離率（検出された肺炎球菌の内ペニシリン耐性菌の占める割合）について平成18年度と平成12年から16年までの状況とを比較した。また、年齢別ペニシリン耐性肺炎球菌の陽性者数と長野県感染症情報における届け出患者数についても比較検討を行ったので報告する。

B 方法

ペニシリン耐性肺炎球菌検出状況調査

- ①協力医療機関：飯田市立病院、飯田病院、健和会病院、長野県立阿南病院
- ②調査期間：平成18年度（H.18.4～H19.3）
- ③調査内容：
 - ・肺炎球菌検出数（ペニシリン耐性肺炎球菌を含む）

・陽性者の年齢

なお、今回の調査ではペニシリン耐性肺炎球菌陽性をPCG-MIC値 $>0.064 \mu\text{g/ml}$ とした。また、長野県感染症情報との比較においては、届け出基準（ペニシリン耐性肺炎球菌 MIC 値 $\geq 0.125 \mu\text{g/ml}$ ）で行った。

C 結果

① ペニシリン耐性肺炎球菌検出状況調査

ア. 肺炎球菌検出数とペニシリン耐性肺炎球菌の検出数

平成18年度の肺炎球菌検出総数は、268件で、その内、ペニシリン耐性肺炎球菌は、178件であった。

図1に平成18年度のペニシリン耐性肺炎球菌の分離率を示した。分離率は、67.4%であった。

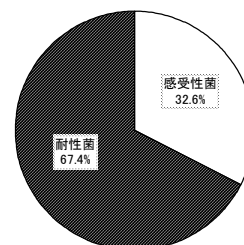


図1 ペニシリン耐性肺炎球菌の分離率(18年度)

イ. 年齢別の肺炎球菌陽性者数とペニシリン耐性肺炎球菌陽性者数

図2に年齢別の肺炎球菌陽性者数を示した。肺炎球菌陽性者数は、1-4歳が73

人で最も多く、次に80歳以上の66人、0歳38人の順であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌は、1-4歳が54人で最も多く、次に80歳以上53人、0歳23人の順であった。肺炎球菌陽性者同様、乳幼児と高齢者に陽性者が多くみられた。

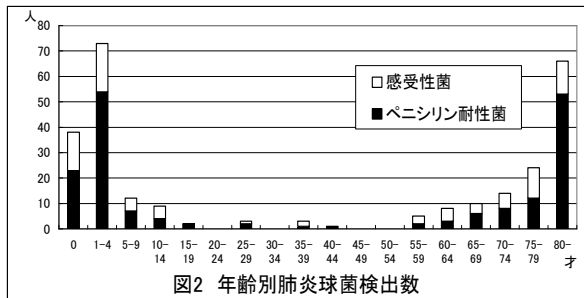


図2 年齢別肺炎球菌検出数

② 平成12年から平成16年までのペニシリン耐性肺炎球菌分離率との比較

飯田下伊那地域における病原体検出サーベイランス事業結果による、平成12年から平成16年までペニシリン耐性肺炎球菌の年次別分離率を図3に示した。平成18年度のペニシリン耐性肺炎球菌分離率は、平成12年から16年との比較では、最も高い値であった。

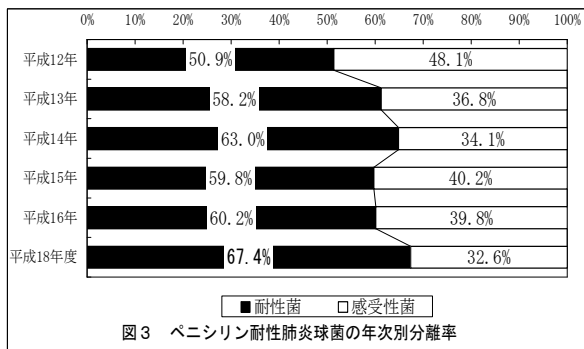


図3 ペニシリン耐性肺炎球菌の年次別分離率

③ 長野県感染症情報におけるペニシリン耐性肺炎球菌感染症届け出患者数との比較

図4に長野県感染症情報によるペニシリン耐性肺炎球菌感染症届け出患者数を年齢別に示した。図5に本調査における年齢別ペニシリン耐性肺炎球菌(MIC値 $\geq 0.125 \mu\text{g/ml}$)の陽性者数を示した。

図4と図5を比較すると、長野県感染症情報では、70歳以上に患者が集中しているのに対し、当所管内におけるペニシリン耐性肺炎球菌の陽性者は、0歳、1-4歳の乳幼

児にも、高齢者と、ほぼ同等に多くみられた。

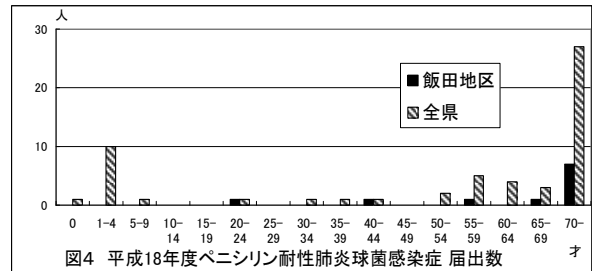


図4 平成18年度ペニシリン耐性肺炎球菌感染症届出数

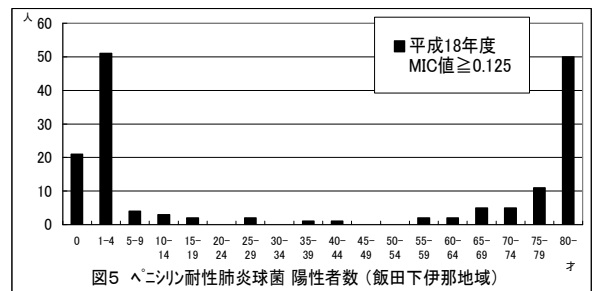


図5 ペニシリン耐性肺炎球菌陽性者数(飯田下伊那地域)

D 考察

今回の調査結果では、ペニシリン耐性肺炎球菌の分離率が上昇していた。今後、医療機関等における問題について考え、その対策を探って行きたい。

図4のデータは、基幹定点病院から報告された患者数で、図5のデータは、当所管内の基幹定点病院を含む4病院における陽性者数である。いずれも診療所や医院によるものではなく、それぞれのデータについての比較性は、良いと考える。

長野県感染症情報における届け出患者数と今回の調査におけるペニシリン耐性肺炎球菌陽性者数とについては、年齢分布に差がみられた。これは、今回の調査対象が感染症患者ではなく、耐性菌陽性者についてであったためと考えられる。さらに、乳幼児患者の潜在や報告の問題による可能性も示唆され、今後、調査の必要があると思われた。

最後に、本調査に御協力いただきました医療機関各位と共同調査に参加いただきました飯田下伊那臨床検査研究会の皆様へ深謝いたします。